

地域を つなぐ人

【伊勢】玉城町の青木俊弥さん(26)は、約68坪の圃場(ほじょう)で「えびすかぼちゃ」を栽培し、JA伊勢へ出荷している。その他、加工用カボチャやナバナなどを栽培している。

青木さんは5年前、祖父にカボチャ栽培を勧められたことがきっかけで就農した。カボチャ栽培の魅力は、手をかけた分だけ良い品質のものができることだ。

栽培では、一昨年から人工授粉を行っている。青木さんは「朝4時から一つ一つの花に筆で花粉を付けるのは

玉城町

青木 俊弥さん(26)



カボチャを手に笑顔を見せる青木さん

良質カボチャへ意欲

大変だが、収量に影響すると思うとやりがいもあり、楽しい作業だ」と話す。

また、圃場の水はけが悪いとカボチャがうまく育たず、病害が発生しやすいため、今年

排水性を高めた。しかし、今年は空梅雨だったこともあり、長雨の被害がなかった一方で、定植後の5月の気温が低く、生育や収穫が遅れるなど新たな課題が出てきた。収穫が遅れると、他の品目と

作業時期が重なってしまふことから、定植した苗にビニールをかけて加温して生育を良くし、適期に収穫できるようにしていく。近年は気候変動により収穫期の気温が高いため、果実の日焼け対

策に力を入れている。葉が少なく直射日光に当たってしまうものには、一つ一つテープを貼って保護している。

収穫後の果実をトラックの荷台に載せるときにも、シートをかぶせて直射日光を遮るよう工夫している。

また、現在は日中の作業を避けたりして熱中症予防に努めているが、ゆくゆくは気温の下がる夜間に収穫時間をずらすことも検討していく。

青木さんは今後について「収量を確保できるように栽培面積を増やしていくつもりだ。天候に左右されるので思うようにいかないときも多くあるが、工夫を重ねて、より良い品質のカボチャを作りたい」と意気込みを話す。